



GOOD NEWS ときのかえ

War Cry

3月号

福音版
2019
March
No.2780

二〇一九年 三月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行(除く七月)

他人事ですか？

わたしたちの身のまわりには、様々な情報があふれています。おいしいもの、美しいもの、体に良いもの、楽しいもの、お金が儲かるもの、珍しいもの、衝撃的なもの……。

近年は、既成のメディアの取材を待つことなく、誰もがその場で重大な出来事も

の写真や動画を撮って、多くの人に伝えることさえ簡単にになりました。

このような今の時代に、イエス・キリストのことはどれくらい知られているでしょうか。聖書には、イエス・キリストがこの地上を歩み、神



インドネシアの救世軍施設にいる子どもたち (関連記事 2、3 ページ)

徳永 由美

の愛の教えを語り、多くの人を癒し、人類の罪の身代わりとなつて十字架にかかり、復活された、と記述されています。現代なら、動画付きでもっと確かに、多くの人に伝えられたのではないかと考えられる方もあるかもしれません。

イエス・キリストがある町に入られた時のことです。大勢の群衆が彼と一緒に移動していました。限られた情報手段しかない当時でも、イエスの評判は広がっており、話を聞きたい人、病気を治してほしい人、なんだから分らないけれど珍しいことは見たい人等、様々な人々の様々な動機が入り交じつてその集団をつくっていました。そのざわめきに気づいた目の不自由な人が「わたしを憐れんでください」と叫びだします。多くの人にとつて、その声はうるさくて迷惑でした。叱りつけて黙らせようとしたが、彼は叫び続けます。

その時、イエスはその声を聞いて、目の不自由な人と呼び寄せ、「何をしてほしいのか」と聞いてくださいました。「目が見えるようになりたいのです」と答えた彼の目は、すぐに見えるようになり、その後、イエスに従ったことが聖書に書かれています。(マルコによる福音書10章46〜52節)

これは、大事件です！大事件が起こりました！みんながスマートフォンを持つている今なら、うるさく迷惑をかける人の姿や声、イエス・キリストとのツーショット、見えるようになった瞬間などが一気にネット上に流れたことでしょうか。あなたは、このような画期的な奇跡が、今きちんと伝えられたなら、みんながキリストを信じるはず、二千年も昔のことで惜しい！と思うでしょうか。果たしてそうでしょうか。「わたしを憐れんでください」とイエスのもともと来た人に、イエスは、「あなたの信仰があなたを救った」と言われました。すると、彼の目は見えるようになったのでした。大切なのは、「イエス・キリストとわたし」の関係をつくるかどうか

かです。他人事、世間一般の情報としてキリストを知っているだけではなく、自分のものとする「あなたの信仰」の決断が必要です。奇跡を起こすような信仰は、人の思い込みの深さや祈りの量などではなく、あなたの人生の戸口まで来てくださっているイエスを迎えられるかどうか、なのです。二千年以上昔のことでありながら、聖書の中に記されたイエス・キリストの姿を今も、わたしたちは知ることが出来ます。聖書はどこでも手に入ります。また、キリストを描いた芸術的にも歴史的にも価値の高い、有名な絵画もたくさんあり、見たことの無い人はいないくらいでしょう。

ある時、教会に通っていた一人の中学生が教科書でキリストの十字架の絵を見ました。それは教養として知っていておかしくない有名な絵でしたが、その瞬間この十字架の苦しみが自分のためだ、と衝撃をもって心に飛び込んできたそうです。彼女はキリストを信じて今も人生を歩んでいます。キリストはあなたにとつて、他人事の情報ですか？「あなたの信仰」となることを心から願っております。(救世軍士官(伝道者))

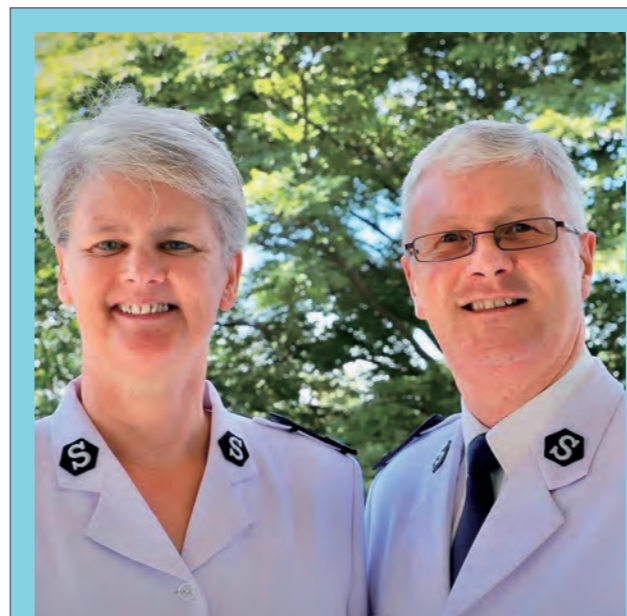
国境を超える支援のために備えてきました

海外宣教のために始まった克己週間募金

日本で毎年春におこなわれている克己週間は、一八八六年、救世軍の創立者ウィリアム・ブリスが海外宣教のための献金を募ったことがきっかけで始まりました。呼びかけに心動かされた人が、「私は、一年間デザートを食べないで、その分献金します」と申し出たのです。その申し出に、創立者は、「一人ひとりが一週間何かを我慢・儉約して献げよう!」と克己(自分の欲望などに打ち勝つという意)週間という名の募金運動を始めました。この募金は、救世軍が活動するすべての国でおこなわれています。日本の克己週間募金で集められた資金は、英国にある救世軍の本部に送金され、同時に、経済

海外で奉仕したい! は夫婦の願い

私と夫のケ빈は、国際的な教会である救世軍の信徒の家庭で生まれ育ったので、二人共、ごく自然に海外で奉仕したいと思うようになっていました。特に夫は、幼い頃からずっと、外国で働き、異なる文化を理解したいと思っていました。そこで、わたしたちは、そのための門が開かれるこ



ジェーン・サンドフォード

信徒伝道者(宣教師)。2017年、海外で救世軍の働きを支援するため、夫のケビンと共に英国からインドネシアに派遣された。インドネシアの抱える課題解決のため、海外からの様々な支援によるプロジェクトを進めている。

に属するインターナショナル・スタッフ・ソングスターズという合唱団に属して、音楽での宣教活動にも参加していました。英国内だけでなく、アフリカやオーストラリアなど、海外遠征にも

参加して、それぞれの地域で、合唱を通して奉仕する機会がありました。私は、万国本営に雇用され、救世軍士官(伝道者)のための研修機関にスタッフとして勤務しました。そこは、世界中の士官が数週間滞在して研修を受ける場所でしたので、世界中の人と出会うことができました。わたしたち夫婦は、いつでも神様の導きに心を開いていいたので、世界中の人と出会うことができました。わたしたちが海外で奉仕したいという思いを受け止めてくださったのだと思います。



島々からなる国ーインドネシア

ここインドネシアで働くことができることは、わたしたちにとってすばらしい経験になると思っています。インドネシアは近年急速に発展している国の一つです。人口約二億六千八百万人の八パーセントがイスラム教徒です。世界一の群島となる一万七千の島々を有しています。昨年九月、それらの島の

インドネシアへの派遣に至るまで……

実は、わたしたちがインドネシアを選んだわけではありません。ちょうどインドネシアが求めている人材にわたしたちの経験がぴったりだった、ということでしょう。インドネシアで奉仕できることをとても嬉しく思っています。二〇一六年九月にさかのぼりますが、ケビンと私は海外での奉仕の希望を救世軍に申し出ました。それから、数多くの面接があり、いくつもの申請書類を提出し、健康診断も受けました。多様な文化を理解することや、海外生活のための準備が進められ、翌年四月頃には、インドネシアで奉仕することが内定していました。けれども、正式にわたしたちの属する英国の救世軍からの許可が出るま

では、このことは誰にも公表できません。救世軍で正式に発表されてからも、今度は主にビザの発給の遅れのために、さらに五カ月を要し、二〇一七年九月の最後の週まで、ビザが許可されるかどうかはわからない状態でしたが、十月二日、インドネシアの救世軍の本部がある、バンドンへ向かうことができました。ケ빈は、インドネシアでプロジェクト・ディレクターとしての責任をもち、海外からの支援によって、インドネシアの抱える課題の解決に取り組む働きをしています。私は、そのアシスタントをしながら、チャイルド・スポンサー制度の働きと、児童安全保護の働きの責任者のアシスタントをしています。

温かい心と笑顔に迎えられる

インドネシアの人々は、わたしたちを本当に快く迎え入れてくださいました。同じ救世軍に属しているということもあるかもしれませんが、とても心地良い中に過ごしています。インドネシアの人々は皆さん心温かく、こぼれるような自然な笑顔をたたえています。そして、何をすることも、期待される以上のことをしようとする姿勢をもっています。わたしたちにも懸命に英語で話そうとしてくれますし、いっしょに写真を撮るのも大好きなのです! 救世軍士官も、実に忠実な働きをしています。生活環境はとても脆弱ですし、辺境地の状況は厳しいものですが、どなたも謙遜に奉仕しておられ、その犠牲的な姿に教えられています。

彼らが働きの中で日々献げる祈りは、健康や家族、旅が守られるように、など切実です。十分な医療が受けられないまま亡くなることもあります。それでも、皆さん神様を賛美し、神様を信頼しておられます。わたしたちが現在取り組んでいる働きの一つがその士官の住宅を三十棟整備する、という計画です。インドネシアの士官の住環境は、本当に信じられないほどひどいものなのです。日本からの資金も、北スマトラと東カリマンタンの二箇所の住宅建築のために用います。昨年の災害の規模があまりに大きかったので、これらの計画も少なからず影響を受けて遅れています。一箇所は、今年六月の完成を目指しています。

子どもたちとの触れ合いが何よりの喜び

わたしたちの働きのもう一つの重点事項が、子どもたちへの支援です。救世軍の児童養護の働き(写真・表紙に掲載)が、インドネシアの児童保護の新しい模範となるべく計画しています。里親制度や、子どもの近親者が様々なサポートを得ながら養育することなど模索しています。当然、法に基づいて、児童の安全が保障されていることが土台です。私が一番嬉しいのは、そういう子どもたちのいる施設での子どもたちとの触れ合いです。写真(右ページ)で、私の膝に三人の子どもが乗っているのがわかりますか? 母子寮での写真です。言葉の壁があるにもかかわらず、子どもたちは臆することなく近づいてきてくれます。子どもたちの回復力は速いものです。世界中からの支援を受けて、子どもたちの養育・教育のための設備を整えることができ、感謝しています。

私の好きな聖書の言葉は、ローマの信徒への手紙の八章です。特に三七く三九節をご紹介します。「しかし、これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを愛してくださいる方によって輝かしい勝利を収めています。わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。」

インドネシアの救世軍は、今年百二十五周年を迎えます。インドネシアでの救世軍の働きがより堅固なものとなるために、私も共に働きたいと思っています。(救世軍 信徒伝道者)

インドネシアの救世軍
(『2018年 救世軍年鑑』より)
信徒数 (大人) 36,973
(子ども) 6,864
* 同友者 14,466
小隊 (教会にあたる) 278
分隊 (伝道所にあたる) 110
学校 78、大学 3、病院 6、
診療所 14、施設 25
士官 777 (現役 631、引退士官 146)
士官候補生 55 雇用職員 2,341
※救世軍で信仰生活を送ると誓約した人



スラウェシ島では、救世軍の施設の被害も大きく、現在も復興途上にある。(写真上) 地震と洪水に見舞われたパル市(写真中) 罹災した直後、外で診療する救世軍の病院スタッフ(写真下) 仮設礼拝所

キトリ

ご住所

ご氏名

私の近くの救世軍を紹介してください。
キリスト教についてもっと知りたいです。
『ときのかえ』の購読を申し込みたいです。

この部分を封書か葉書に貼り、裏面の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 プライアン・ペドル (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 ケネス・メイナ (救世軍本営 東京都千代田区) http://www.salvationarmy.or.jp



世界をみつめて

〈ブラジル〉暴力から逃れてきた人を支援する避難所を開設

1月18日(金)、ベネズエラからの難民や移民を含む地域住民のための避難所が開所しました。州都ボアビスタにある救世軍のブリッジ・プロジェクトの一環で、欧州連合(EU)の資金によって、国連人口基金(UNFPA)および国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)と連携して運営されています。

特に女性、若者、障害者、LGBTIコミュニティのメンバーに焦点を当て、ジェンダーに基づく暴力を受けた人々のための、心理カウンセリング、法律相談、治療、ライフスキルの学び等の支援を提供しています。※(性的マイノリティの総称。レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー・インターセクシュアルの頭文字)



〈アメリカ〉ローズパレード参加100回記念のスペシャルバンド

カリフォルニアでの新年の恒例行事は、地域、全米のみならず海外からの参加者もある、ローズパレード。毎年、テレビで全米に配信されています。

1890年に始まったこのパレードに、地元のパサデナ・タバナクル小隊(教会にあたる)の金管バンドが初めて参加したのが1920年。今年は、救世軍としての100回目の参加を記念して、国内外からのメンバーで編成されたスペシャルバンドで参加しました。



〈日本〉岡山県真備町での支援活動に参加

2018年12月25日(火)、岡山及び福山小隊の有志が、真備町にある「まびくら」でおこなわれた、「YMCAせとうち」主催のイベント「ウィンタースクール・クリスマス会」で、食事を提供する支援をおこないました。

「まびくら」は、昨夏の西日本豪雨被害復興拠点のため、超教派の組織「岡山キリスト災害支援室」と「YMCAせとうち」と日本基督教団東中国教区が連携して、運営しています。

当日は、岡山市と真備町の子どもたちと地域の大人たち、ボランティアを合わせて100人を超す人々が集い、歌やゲームを楽しみ、クリスマスキャ

ロールを歌ったり、クリスマスのお話を聞いたりして過ごしました。食事(アレルギー対応のカレーライス)やプレゼントもあり、たくさんの笑顔があふれる時になりました。

会場のすぐ横で揚げた「救世軍ドーナツ」も好評でした。



救世軍とは? What is The Salvation Army? 心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man



救世軍は英国に国際本部を置くプロテスタントのキリスト教会です。創立者は英国のメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブース。1865年、東ロンドンのスラム街で、どのような境遇の人もイエス・キリストを信じるなら救われる、と伝道を始め、飢えている人には食べ物、家のない人には宿泊場所、仕事のない人には職業の斡旋を、アルコールにおぼれる人や搾取されている女性たちには、回復・更生のための施設を提供し、物心両面からの救いを目指しました。やがてこの働きを推し進めるために、軍隊流の組織を取り入れ、「The Salvation Army」と名づけました。



日本では1895(明治28)年に働きが始まりました。日本人で最初に士官(伝道者)になった山室軍平は、社会問題に取り組み、廃娼運動や結核療養所設立などに力を尽くして、キリスト教界だけでなく、明治~昭和初期の社会福祉史にもその名を残しました。

現在、日本の救世軍では、43の小隊と、19の社会福祉施設、2つの病院(ホスピス併設)を通して、働きを進めています。

昨年末にご協力いただいた社会鍋募金による支援活動は、年末からおこなわれています。昨年のクリスマスイブ、東京地区では街頭生活者支援がおこなわれ、大人も子どももボランティアはサンタクロースの帽子をかぶって、特別なクリスマスプレゼントを配布しました。また、各地の救世軍では、地域の高齢者や生活に困難を覚えておられる方々、小規模作業所や各種施設のニーズに応える支援をおこなっています。

社会鍋募金へのご協力をありがとうございました。



(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではお取り扱いせん。これらの問題ではお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価

- ▼発行日 福音版・毎月一日発行
- ▼定価 福音版・一部 四〇〇円
- 広報版・一部 一〇〇円
- クリスマス特集号(十一月一日号) 一部 一〇〇円
- 振替・〇〇二八〇五四四〇〇

印刷所 救世軍本営 図書印刷株式会社
電話 東京(03)三三七〇八八二
〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七